

次世代モビリティ社会を考えるタベ

次世代モビリティ技術の発展・普及、スマートでレジリエントな都市デザイン、そしてそこで生活する人間。これらが織りなす「次世代モビリティ社会」はどうあるべきか？

企業、行政、大学などの研究機関は、今後何をしなければならないか、**毎回ひとつのテーマ**を取り上げて、**少人数の対面**にて、名古屋大学モビリティ社会研究所のメンバーらと考えていきます。



2022

10.28(金) 説明できる運転知能技術

17:00 - 19:30

AI技術による判断根拠の言語化と自動運転リスク コンサルティングへの展開

自動運転分野での AI の利用に期待が集まる一方で、ブラックボックス化する AI に「判断」を依存することに不安が集まっています。説明可能な AI 技術をモビリティ技術に適用する研究の実例として、NEDOの受託を受け、損保ジャパン社や米国大学と共同で進めている「交通状況の言語化」に関する研究プロジェクトを、紹介します。

**武田 一哉**名古屋大学 副総長
モビリティ社会研究所・教授**武田 浩一**名古屋大学 情報学研究科附属
価値創造センター長・教授

指定討論者：高田 広章：名古屋大学モビリティ社会研究所（GREMO）所長・教授
出口 大輔：名古屋大学 情報学研究科 知能システム学専攻・准教授

内容**研究・技術紹介 + ディスカッション****会場****名古屋大学 ナショナルイノベーションコンプレックス
1階 Idea Stoa（名古屋市中種区不老町）**

※市営地下鉄名古屋大学駅 徒歩1分

参加費**7万円／名（HMHS会員以外は10万円／名）
（飲料・軽食付き）**

※ 最少開催人数 3名

一社当たりの参加人数制限はありませんが、全体で10名程度に限定します。

**参加申込
お問合せ**一般社団法人
人間機械協奏技術コンソーシアム

メールにてお申込・お問合せください。

E-mail hcm_info@hmhs.jp